MITSUBISHI

0304872HK9001

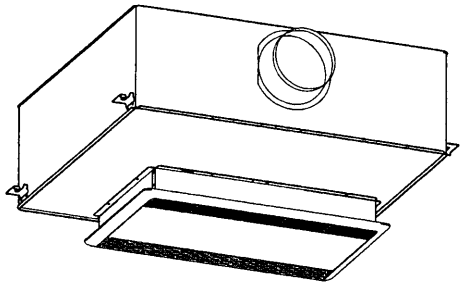
三菱電機業務用単独加湿ユニット

形名

TKA-2500C

取扱説明書

お客さま用



もくじ

	ページ
安全のために必ず守ること	2
特　長	2
各部のなまえとはたらき	3
使いかた	3～4
お手入れ	5
保守点検〔工事店さま用〕	6～8
「故障かな？」と思ったら	8
アフターサービス	8
仕　様	8

★ご使用の前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
★お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに、同封の「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口(冷熱品)」とともに大切に保管してください。

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

⚠警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	可燃性ガスが漏れた場合はコントロールスイッチを入・切しない （電気接点の火花により爆発する原因になります） 窓を開けて換気する
分解禁止	改造や必要以上の分解はしない （火災・感電・けがの原因になります）
水ぬれ禁止	製品を水につけたり、水をかけたりしない （火災や感電のおそれがあります）
指示に従い必ず行う	交流 100V を使用する （直流や交流 200V を使用すると火災や感電の原因になります）
	お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る （通電状態では感電やけがをすることがあります）
	異常時(こげ臭い等)は、運転を停止して分電盤のブレーカーを切り、お買上げの販売店または「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」に相談する （異常のまま運転を続けると故障や感電・火災などの原因になります）
	凍結のおそれのある場所地域では、必ず凍結防止工事を行う （電磁弁、配管などが破損し、水漏れの原因になります）

⚠注意 誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止	加湿ユニットの風が直接あたるところに燃焼機器を置かない （不完全燃焼による事故の原因になることがあります）
	高温(40℃以上)や直接炎があたったり、油煙の多い場所では使用しない （火災のおそれがあります）
	機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所では使用しない （故障の原因になります）
指示に従い必ず行う	お手入れ後の部品の取付けは確実に行う （落下によりけがをすることがあります）
	お手入れの際は手袋を着用する （着用しないとけがの原因になります）
	長期間使用しないときは分電盤のブレーカーを切る （絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります）

特　長

最近のオフィス等は気密性が良く、冷暖房効果・しゃ音効果が高いというメリットがあります。
その反面、加湿不足による建物、機器への影響や働く人の健康を損なう心配があります。

そこで単独加湿ユニットはロスナイとの組み合わせにより「ビル管理法」をクリアする加湿量を確保できます。
ロスナイは…室外の空気を室内の温・湿度に近づけながら室内に給気するとともに、汚れた空気を室外に排気します。

主な特長

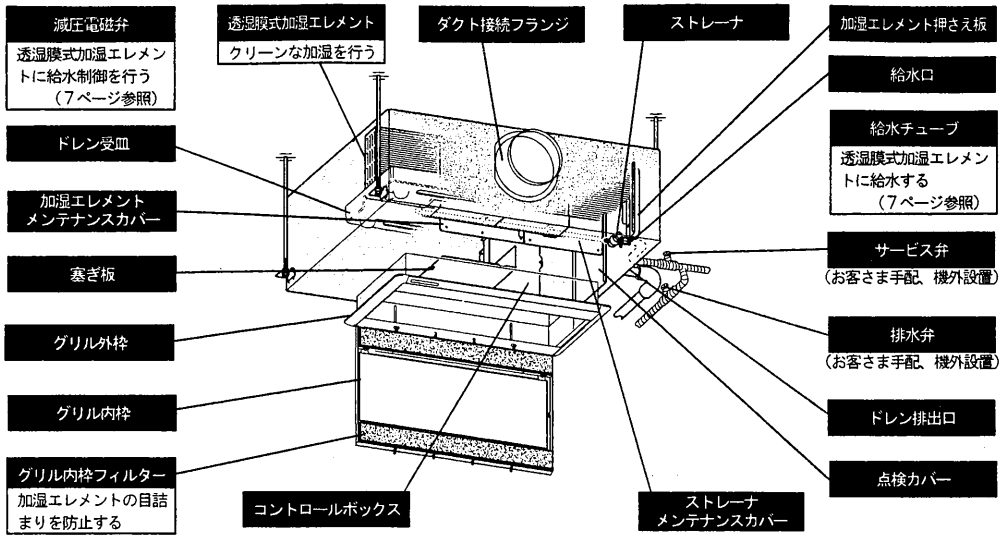
1 ロスナイとの組み合わせにより **ビル管理法クリア**

加湿ユニットによる加湿分とロスナイの湿度回収分でビル管理法で規定されている相対湿度基準をクリアできます。
※計算条件…室内空気：22℃、50%RH　外気：0℃、50%RH　使用ロスナイ：LGH-50RS3

2 透湿膜式加湿エレメントによる **クリーンな加湿**

透湿膜式加湿エレメントを採用。水蒸気だけを透過させ白粉のないクリーンな加湿を実現します。

各部のなまえとはたらき



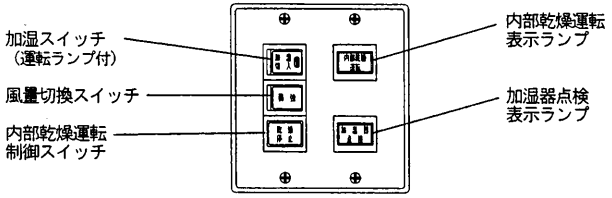
使いかた

1.コントロールスイッチの基本操作

システム部材(別売)のコントロールスイッチで、加湿「入」・「切」、風量切換、内部乾燥運転の制御を行います。

●コントロールスイッチの取付工事・取扱説明書も合わせてご覧ください。

システム部材(別売)
コントロールスイッチ（PT-02STK）



運転する

加湿スイッチを「入」にする。（ランプ点灯）

※加湿器点検表示ランプ･･･ ドレン排水に異常が生じたときに点灯する。また、複数台運転時、通信異常を検出した場合にも点灯します。

お願い

●複数台運転中に加湿器点検表示ランプが点灯した場合には、全加湿ユニットを点検してください。

風量を切り換える

風量切換スイッチで、「強」・「弱」を選択する。

運転を止める

加湿スイッチを「切」にする。（ランプ消灯）

メモ

●加湿スイッチを「切」にすると、内部乾燥運転表示ランプが点灯して自動的に内部乾燥運転を開始します。

※内部乾燥運転 ･･･････････ 加湿エレメント内残留水の腐敗を防止するため、運転停止後、残留水を排水・蒸発させる送風乾燥運転を本体回路内蔵のタイマーで3時間行います。

使いかた つづき

内部乾燥運転を制御する

内部乾燥運転中に内部乾燥運転制御スイッチを2秒間押すことで内部乾燥運転をキャンセルすることができます。

お願い

●やむを得ない場合以外、内部乾燥運転はキャンセルしないでください。キャンセルした場合は再度スイッチを2秒間押して内部乾燥運転に復帰させてください。

⚠注意

夜間や休日など換気装置・空調機を運転しない場合は加湿ユニットを停止する
（湿度過多になり窓の結露・壁クロスの剥がれなどの問題が発生することがあります）

加湿運転停止後、内部乾燥運転を手動で行う方法（お客さまご自身の責任となります）

手動運転の設定方法

⚠警告

設定は販売店・工事店さまが実施し、お客さま自身では行わない

①分電盤のブレーカーを切る。
②加湿ユニット本体内の機能切換スイッチ（SW1）で設定する。
詳しくは取付工事説明書を参照してください。

手動操作で内部乾燥運転を制御する

①加湿スイッチを「入」から「切」にする。
②内部乾燥運転制御スイッチを2秒間押すことで手動による内部乾燥運転を行う。

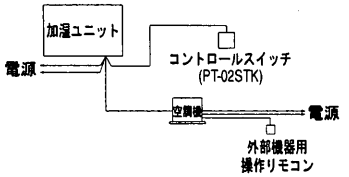
メモ

●内部乾燥運転のキャンセルおよび運転の復帰の方法は自動運転による場合と同様です。
●運転を行わないと残留水が腐敗し異臭を生じることがあります。

2.空調機などの外部機器と連動する場合

加湿ユニットを空調機などの外部機器と連動して運転することができます。

システム例



外部機器用操作リモコンで「運転」または「停止」させますと自動的に加湿ユニットも「運転」または「停止」します。

■連動動作

コントロールスイッチ(PT-02STK)		空調機	加湿ユニット
加湿スイッチの状態	入	運転	運転
	入	停止	運転
	切※	運転	運転
	切	停止	停止

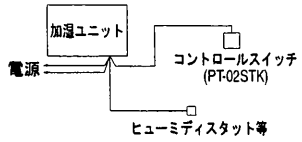
メモ

※コントロールスイッチ(PT-02STK)の加湿スイッチが「切」の状態でも空調機が運転状態の場合は加湿スイッチの運転ランプが点灯し、加湿ユニットは運転します。

3.ヒューミディスタット等により運転制御する場合

ヒューミディスタット等を用いることで、加湿ユニットを自律制御することができます。

システム例



ヒューミディスタット等で湿度設定を行うことにより加湿ユニットの「運転」・「停止」の制御を行います。

メモ

●ヒューミディスタット等により加湿ユニットが「停止」している場合は、コントロールスイッチの加湿スイッチ運転ランプは点灯します。

お手入れ

加湿ユニットの機能低下を防ぐため、グリル内枠フィルターに付着したごみ・ほこりを定期的に清掃してください。
（汚れの程度に応じて清掃回数は増やしてください）
目安　グリル内枠フィルター……１年に１回以上

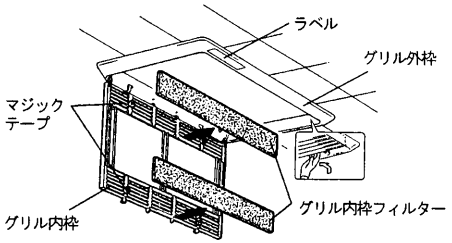
⚠警告

●お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る
（通電状態では感電やけがをすることがあります）

⚠注意

●お手入れの際は手袋を着用する
（着用しないとけがの原因になります）
●お手入れ後の部品の取付けは確実に行う
（落下によりけがをすることがあります）

部品のはずしかた



グリル内枠を開け、グリル内枠フィルターを取りはずす

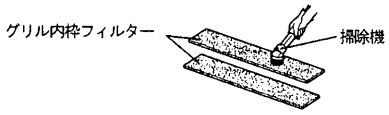
1. グリル内枠を少し持ち上げながら、ラベルに示す方向へ動かして開ける。

お願い

●開けるときはゆっくり両手で支えながら開けてください。急に手を離すと引掛部分が割れるおそれがあります。

2. グリル内枠フィルターは２枚あります。それぞれ２か所でマジックテープ止めされていますので、ゆっくりはがす。

グリル内枠フィルターの清掃



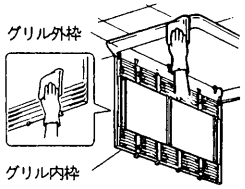
軽く手でたたくか、または掃除機でほこりを吸い取る

汚れのひどい場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯(40℃以下)に浸して押し洗いをし、きれいな水ですすいでからよく乾かす。

●交換用のグリル内枠フィルターがシステム部材(別売)として用意されていますので、古くなったグリル内枠フィルターは交換してください。

●熱湯で洗ったり、もみ洗いはしない
●直接火にあてて乾かすことはしない

グリルの清掃

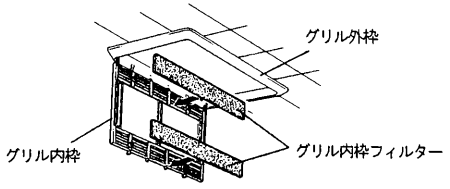


中性洗剤を溶かしたぬるま湯（40℃以下）に浸した布を固くしぼって拭く。洗剤が残らないようきれいな布で拭き取る。

お願い

●お手入れに下記の溶剤などを使用しない。変質・変色の原因になります。
シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリン、灯油、スプレー、アルカリ洗剤、化学ぞうきんの薬剤、クレンザー等けんま材入りの洗剤

取付けと確認



取りはずしと逆の順序で取付ける

1. グリル内枠フィルター（２枚）を取付ける。
2. グリル内枠を閉じる。
両手でグリル内枠を押し上げ引掛部をはめ込みます。
3. 落下しないことを確認する。

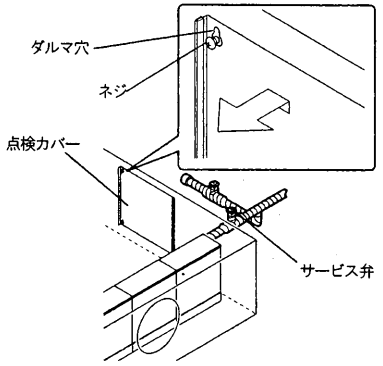
保守点検【工事店さま用】

長い間ご使用いただくため、１年に１回を目安に下記の点検を工事店にご依頼ください。
■保守点検の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置方法	
ストレーナ	ごみによる目づまりの点検	目づまりが生じている場合は洗浄	加湿不能
	Ｏリング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は交換 ※注1	水漏れ
加湿エレメント	加湿エレメント表面からの漏水点検	加湿エレメント表面から水が吹き出す場合は交換 ※注2	水漏れ
	加湿エレメント表面のごみ・ほこり点検	ほこりで風路がふさがれている場合は掃除機にて傷つけないよう清掃または水洗いする	風量低下 加湿能力低下

※注1･･･交換用Ｏリング：市販品 P22A、P20
※注2･･･結露等により少量の水がでる場合がありますが異常ではありません。

清掃前の準備　必ず実施してください



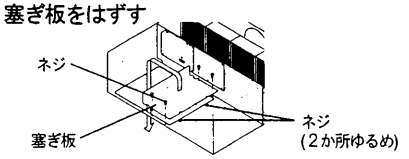
1. 水漏れ対策をする。
●加湿エレメント内の水がこぼれます。床にビニールシートを敷くなど水漏れ対策をしてください。
2. グリル内枠を開ける。
お手入れ（5 ページ）の「部品のはずしかた」を参照してください。
3. ネジ４か所をゆるめ、点検カバーを上にスライドさせ、ダルマ穴からはずす。
4. サービス弁を閉める。（残留水の飛散防止のため）

ストレーナ（フィルター）の清掃のしかた

1 グリル内枠を開ける

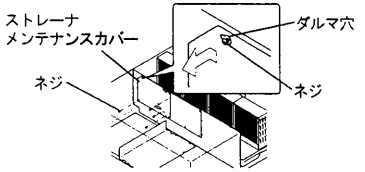
お手入れ（5 ページ）の「部品のはずしかた」を参照してください。

2 塞ぎ板をはずす



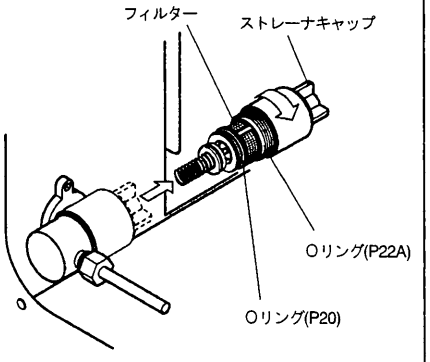
ネジ２か所をゆるめ、残りのネジ４本をはずし、塞ぎ板を手前にスライドさせてはずす。

3 ストレーナメンテナンスカバーをはずす



ネジ４か所をはずし、ダルマ穴のネジ３か所をゆるめメンテナンスカバーを左にスライドさせダルマ穴からはずす

4 ストレーナキャップをはずす



1. ストレーナキャップを反時計回りに回してはずす。
2. フィルターに付着した汚れを水で洗い流す。
3. ストレーナを元通り取付ける。

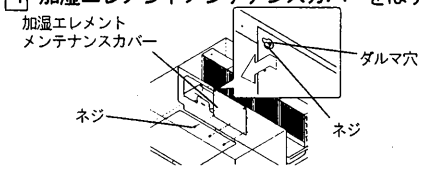
加湿エレメントの取りはずしかた　6ページ「ストレーナの清掃のしかた」参照

1 グリル内枠を開ける

2 塞ぎ板をはずす

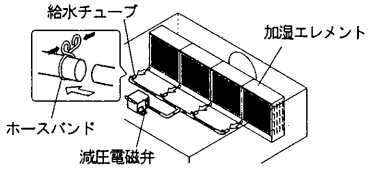
3 ストレーナメンテナンスカバーをはずす

4 加湿エレメントメンテナンスカバーをはずす



ネジ3本をはずし、上側のネジ2か所をゆるめメンテナンスカバーを左にスライドさせ、ダルマ穴からはずす。

5 加湿エレメントから給水チューブをはずす



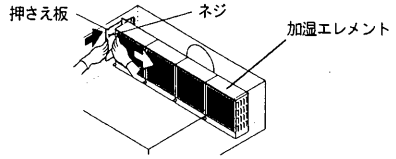
加湿エレメントから給水チューブをはずす。

お願い

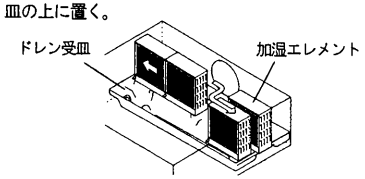
- ●給水チューブをはずすときはホースバンドをつまんで加湿エレメントから約2cmずらしてください。
- ●減圧電磁弁から給水チューブを取りはずさないでください。
- ●給水チューブをはずすときは、チューブ内の水が排出されるため、本体内部のドレン受皿に水が落ちるようにしてください。

6 加湿エレメントを取り出す

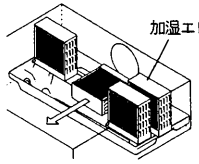
1. ネジ2か所をゆるめ加湿エレメントを右側に押さえながら押さえ板を奥にスライドさせる。



2. エレメントを給水側にずらし、左から3個目のエレメントをドレン受皿のレールからはずし、図示のようにドレン受皿の上に置く。

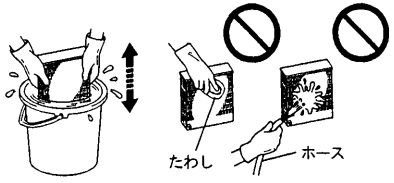


3. 左から2個目のエレメントをレールからはずし、水平にしてそのまま取り出す。
   - ●加湿エレメント内部に残っている水をドレン受皿に出す。
   - ●加湿エレメントを傷付けないようにしてください。



4. 残りのエレメントを同様の方法で取り出す。

加湿エレメントの水洗いのしかた



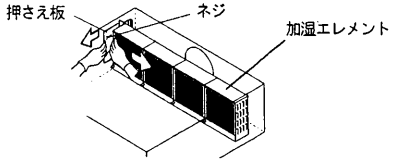
バケツなどに水を入れ加湿エレメントを4～5回揺らすように上・下させて、ごみ・ほこりを洗い流す。

- ●たわしでこすることはしないでください。
- ●直接ホースで水をかけないでください。
  （加湿エレメントが破損し、水漏れの原因となります）
- ●40℃以上の湯や洗剤は使用しないでください。

加湿エレメントの取付けかた

取りはずしと逆の順序で取付ける。

- ●加湿エレメントをドレン受皿のレールに納め、右側に押さえながら押さえ板をストレーナ側にスライドさせてネジ2か所を締め付ける。
- ●給水チューブは確実に接続する。



保守点検【工事店さま用】　つづき

点検後の確認

1. サービス弁を必要に応じて開ける。
   - ●夏期は加湿を必要としない場合が多いため、サービス弁を閉じておくことをおすすめします。
2. 冬期(加湿時期)は凍結防止用ヒーターの電源が入っているか確認する。
3. 試運転を行い、水漏れのないことを確認してください。

お願い

- ●試運転終了後、サービス弁を閉じ、風量切換スイッチを「強」にして24時間以上運転し、加湿エレメント内に水分が残留しないようにしてください。運転を行わないと残留水が腐敗し、異臭を生じることがあります。
- ●異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。

「故障かな？」と思ったら

次のような現象が生じた場合は、下記を参照してお客さま自身で処置をしてください。

現象	原因	処置
加湿しない	●元電源が入っていない	●元電源を入れる
	●グリル内枠フィルターが目詰まりしている	●「お手入れ」に従って清掃する
	●コントロールスイッチの加湿スイッチが「切」になっている	●「入」にする
	●給水されていない	●サービス弁または元栓を開く

※上記の処置をしても改善されない場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

アフターサービス

アフターサービスはお買上げの販売店かお近くの「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。

異音がする、風が出ないなど異常があれば電源を切って、お買上げの販売店へご連絡ください。点検・修理に要する費用などは販売店にご相談ください。

■補修用性能部品の保有期間

- ●当社は、この業務用単独加湿ユニットの補修用性能部品を製造打切り後9年保有しています。
- ●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

加湿エレメントの交換時期について

水道水内の不純物や混入物質が加湿エレメント内に堆積するため、加湿能力は徐々に低下します。

- ●使用過程において加湿量が少なくなった場合は、加湿エレメントの交換(お客さまご負担)を検討願います。
- ●交換時期については、運転時間・水質条件によって異なりますが、7年を目安としてください。

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

仕　様

形名	周波数 (Hz)	消費電力 (W)	定格風量 (m^3/h)	加湿量 (kg/h)	騒音(dB) グリル真下	騒音(dB) 本体吹出口	質量 (kg)
TKA-2500C	50	118	660	2.5	39.5	39	41
	60	141	660	2.5	39.5	39	

※騒音値は無響室で測定したグリル真下1.5mの値です。
※本体吹出口騒音は斜め45°1.5m前方の値となります。
※上記の値は強ノッチ時の場合を示します。
※質量は加湿部満水時の値です。

三菱電機株式会社
中津川製作所　〒508-8666　岐阜県中津川市駒場町1番3号　電話0573-66-2111

この説明書は、再生紙を使用しています。